

# 日々の祈り

2021年9月20日(月)~25日(土)

宮崎中部教会



<はじめに>

それぞれの日々の生活の中で、神さまに心を向け、御言葉を聞き、祈りをもって過ごしましょう。教会のために、兄弟姉妹のために、隣人のために、祈りを合わせましょう。

<使い方>

毎日の御言葉を、可能であれば声に出して、二回以上読んでみましょう。御言葉をじっくりと味わい、聖霊に導かれるままに、祈りの時をもちましょう。

<今週の祈りの課題>

- ・敬老の日を覚えて、信仰の日々を重ねる兄弟姉妹に、イエスさまの平安と祝福が更に豊かになるように。
- ・教会員一人一人の健康と生活が守られ、御言葉と祈りの日々を大切にできるように。
- ・宮崎の地の人々が、神さまのご支配の内に守られるように。そして、救い主イエスさまと出会うことができるように。

20日(月)

ルカによる福音書 18章 1節

イエスは、気を落とさずに絶えず祈らなければならないことを教えるために、弟子たちにたとえを話された。

昨日の御言葉を思い巡らしましょう。わたしたちは気を落とさずに絶えず祈らなければなりません。目の前の苦しみや困難に、気を落としてしまうことも、無力さを感じることもあるでしょう。しかし、神さまはわたしたちの祈りを聞いて下さる方であり、すべてを支配し、わたしたちを愛し、憐れんで下さる方です。父なる神が共にいて下さるなら、わたしたちは気を落とさなくてよいし、また祈り続けることが出来るのです。神さまがすべてをご存じていて下さり、最も良い、最も恵み深い道を備えていて下さいます。

21日(火)

テサロニケの信徒への手紙一 5章 16~18節

いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。

十字架と復活のイエス・キリストが、わたしたちに与えられています。この方が、わたしたちの罪を贖い、滅びの死から解放し、永遠の命と復活の約束を与えて下さいました。そして、やがてイエスさまは再び来られ、わたしたちの救いを完成させて下さいます。それはまったく確かな真実であり、確信を持ってよい希望です。だからこそ、わたしたちはイエスさまにあって、いつも喜び、絶えず祈り、どんなことにも感謝することが出来るのです。

22日(水)

ヘブライ人への手紙 12章 2節

信仰の創始者また完成者であるイエスを見つめながら。

イエスさまは、わたしたちの信仰の創始者です。わたしたちの救いは、その御業を成し遂げられたイエスさまにあり、この方に信頼し、依り頼み、御顔を仰ぐことが信仰の始まりだからです。そしてイエスさまは、わたしたちの信仰の完成者です。イエスさまが再び来られ、わたしたちの救いを、神の国を、すべて完成させて下さいます。始めから終わりまで、わたしたちはずっとイエスさまの御業の中にあるのです。この方をひたすら見つめ、安心して、信頼して、この信仰の道を歩みましょう。

23日(木)

詩編 51編 18~19節

もしいけにえがあなたに喜ばれ／焼き尽くす献げ物が御旨にかなうのなら／わたしはそれをささげます。しかし、神の求めるいけにえは打ち砕かれた霊。打ち砕かれ悔いる心を／神よ、あなたは侮られません。

神さまは心をご覧になります。わたしたちの心が神さまに向かっているか。神さまの御心を思っているか。そのことを求め、ご覧になります。でも、わたしたちは知っています。御心に適わない自分の心。神さまの恵みにお応えすることの出来ない生活。背きの罪を重ねてしまう弱さ。御心を思う時、そんな自分の罪に打ちのめされます。それでも神さまは、そんなわたしたちの打ち砕かれた霊や悔いる心でさえ、憐れんで顧みて下さり、それをわたしたちの献げ物として受け取って下さるのです。

24日(金)

詩編 51編 3~5節

神よ、わたしを憐れんでください／御慈しみをもって。深い御憐れみをもって／背きの罪をぬぐってください。わたしの咎をことごとく洗い／罪から清めてください。あなたに背いたことをわたしは知っています。わたしの罪は常にわたしの前に置かれています。

次の主日礼拝の御言葉です。わたしたちは、いつも神さまの御前に立っていることを忘れてはなりません。神さまはわたしたちの背きも、罪も、ご存じです。わたしたちは、神さまを恐れなければならない者です。しかし、神さまがわたしたちを見つめる眼差しは、怒りにまさって、憐れみと慈しみの眼差しなのです。だから、わたしたちは自分の罪を認め、赦しを求め、悔い改めることが出来るのです。

25日(土)

ルカによる福音書 18章 13節

ところが、徴税人は遠くに立って、目を天に上げようとせず、胸を打ちながら言った。『神様、罪人のわたしを憐れんでください。』

明日の主日礼拝の御言葉です。神さまはわたしたちに対して、何を成し遂げたとか、どれだけ熱心だとか、他の人より立派であるとか、そのようなことを求めておられるのではありません。神さまは、わたしたちが神さまの御前に立ち、心の内を素直に打ち明け、神さまとの良い関係を求めること。神さまと共にある恵みに生きる者となることを望んでおられます。人の目を気にしたり、人の評価を求めたり、人と比べたりする必要はありません。あなたが、神さまの思いを受け止め、それに応えようとしているか。そのことが大切なのです。

聖句:日本聖書協会『聖書 新共同訳』